

世界水準への研究活性化を目指す

山口大「呼び水プロジェクト」採用通知書を授与

山口大学は、世界水準への研究の活性化を目指し、平成22年度から組織的プロジェクト研究や個人研究に対して、その「呼び水」となるスタートアップ支援を図ることを目的に、「呼び水プロジェクト（戦略的研究推進プログラム）」として重点的な支援を行っている。

今年度は厳正な選考の下、53件の応募のなかから10件の研究プロジェクトを採択。さらに4月23日には、平成25年度「呼び水プロジェクト」（戦略的研究推進プログラム）採択通知書授与式を挙行了。

式では、丸本学長が採択研究プロジェクトの代表者一人ひとりに通知書を授与。続いて丸本学長が「皆さんの研究にとって、この支援が呼び水となり、外部資金の獲得に繋がることを期待している。そして他の研究者たちの励みになるような研究活動をしてほしい」と激励の挨拶を行った。

また同日、平成24年度「呼び水プロジェクト」研究成果報告会を開催し、学長をはじめ副学長、教職員など多数の参加があった。24年度は、38件の応募のなかから11件が採択



1年間の研究活動などが行われた報告会



授与式に出席した今年度の採択研究プロジェクトの代表者、学長と理事

され、報告会では、このうち9件の研究プロジェクトの代表者が1年間の研究活動、成果、今後の展望について報告した。報告後の質疑応答の時間では、活発な意見交換が行われ、先駆的な研究に対する関心の高さが伺えた。

山口大では、研究者らがプロジェクトで築いた研究基盤を生かし、持続的に研究成果を生み出すことを期待している。

若手研究者 ITP・組織的な若手研究者派遣事業

お茶大、海外派遣大学院生らの帰国報告会を開催

お茶の水女子大学では、「若手研究者 ITP」及び「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」で海外に派遣された大学院生らによる帰国報告会を3月21日と4月8日の2日間にわたり開催した。

お茶大では、日本学術振興会採択の「若手インターナショナル・トレーニング・プログラム (ITP)」委託事業「校風をつなぐ女性科学者の育成」第2のマーリー・キユリーをめぐせ（平成20年度採択）及び「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」補助事業「国際水準の女性科学者の育成」お茶大型ホップ・ステップ・ジャンプモデル（平成21年度採択）が昨年度で終了。プログラム全期間を通し、ITPでは78名、組織的な若手研究者等海外派遣プログラムでは91名、総計で約170名の留学が実現した。

帰国者報告会では、博士前期課程対象研修



発表する研修留学グループ

留学（ホップ）、博士後期課程対象研究留学（ステップ）、ポストク対象研究留学（ジャンプ）のそれぞれの段階の派遣者が留学の成果を発表し、会場に集まった学内外関係者及び留学に関心のある学生らとの活発な質疑応答が展開された。事業終了後は、ITPの後継事業として、バーギシエ・ブツパタール大学（ドイツ）で英語による専門科目を受講する「研修留学」の派遣事業を継続することが決定しており、引き続きグローバルに活躍する女性科学者の育成を目指す。